

理科教科書類にみる動植物基本語彙の推移

The transition of vocabulary in science textbooks

— especially parts of plant and animals —

大橋 敦夫

Ohashi Atsuo

要旨：明治・大正・昭和・平成の理科教科書を通覧し、そこに現れる動植物語彙の推移について考察する。教科の位置づけ・指導内容は、時と共に変転している。そして、理科教科書に現れる語彙の変化は、また、私たちの生活と自然との関わりの変化を物語っているのでは、ないだろうか。

キーワード：日本語語彙・動植物語彙・理科教科書

はじめに

メダカが絶滅危惧種になって（1999年、環境庁指定）久しい。身近に感じていた生物が、どんどん姿を消していく。その驚きを、言語学者・鈴木孝夫氏は、次のように語っている。

私は環境問題の専門家でも経済のプロでもありません。ですが、過去五十年間、長野県の沓掛（現在の軽井沢）の山小屋と東京を往復する生活をしてきた中で、私は、危機が大きな問題ではなく、真に憂うべき現実なのだということを身にしみて感じています。

（中略）

私は自然のなかを散歩しながら野鳥や虫、きのこなどを見るのが大好きなので、暇さえあれば山の中を歩き回っています。いまから三十年前までは初夏の一日、足を棒にして歩くと、草原の鳥、水辺の鳥、森林の鳥など、百種もの鳥に出会ったものです。

しかし現在では、五月の繁殖期に一日中歩いても四十種見ることは稀になってしまいました。かつての半分以下になってしまったわけですが、これは、別荘やゴルフ場、テニスコートの造成によって、野鳥の棲家が奪われてしまったことが原因です

国有林にしても、すべてカラマツの単純林に置き換えられ、鳥はほとんど見かけなくなりました。いや、鳥だけではなく、蝶も蛾も激減したのです。以前ならば、夜にな

ると私の小屋のガラス一面にびっしりと、ありとあらゆる蛾が張り付いたものですが、今は一匹飛んでくるかどうかです。環境が人工的になったことと、農薬散布や殺虫灯の影響でしょう。虫がいなくなって、それを捕食する鳥——たとえば『よだかの星』で有名なキョキョキョ……と鳴くヨタカ——も完全に姿を消しました。よく庭に出てきたサワガニもヤマアカガエルも全く見かけません。

(鈴木孝夫氏『日本人はなぜ日本を愛せないのか』新潮社 2006.1 p. 221-222)

このような生活実感を、理科教科書類に登場する動植物(語彙)で裏付けることが可能か、それが本稿のモチーフである。

1. 調査対象資料の書誌

明治以降の理科教科書史は、概ね次のように区分できる⁽¹⁾。すなわち、

- I. 検定期以前(教育令)
- II. 明治検定期時代(小学校令)
- III. 国定時代(国民学校令)
- IV. 戦後(学校教育法)

それぞれの時期の代表的教科書を調査対象とするのが、オーソドックスな方法ではあるが、本稿では、理科教育に独自の伝統を持つ信濃教育会編集の教科書類を扱うこととする。それは、一世紀の長きにわたり、「身近な自然から学ぶ理科学習」を理念に編集を積み重ねてきた姿勢⁽²⁾が、本稿の目的に合致するからである。

なお、比較対照のために、検定期以前のものを2点、付け加える。書誌は、以下のとおりである。

- ① 『初學動物篇』明治17年4月出版
伊藤圭介校閲・松本駒次郎編纂 東京 錦森閣蔵 教育書房 本文49丁
- ② 『通常植物小誌』明治18年2月校正再販
宮崎柳條編・出版人牧野善兵衛 本文51丁
- ③ 信濃教育会編『小學理科 生徒筆記代用』明治40年3月訂正再販
東京 光風館蔵版 (全4冊) 一78p, 二78p, 三66p, 四86p
- ④ 信濃教育会編『尋常小學 理科學習帳』大正14年3月訂正再販
光風館書店 (全3冊) 第四學年78p, 第五學年90p, 第六學年94p
- ⑤ 信濃教育会出版部『りか』1年(59p)・2年(72p) 昭和55年1月発行
『理科』3年(80p)『理科』4年上(55p)・4年下(48p)
『理科』5年上(51p)・5年下(47p)『理科』6年上(55p)・6年下(63p)
- ⑥ 信濃教育会出版部『たのしい理科』3年(66p) 平成16年1月発行
『楽しい理科』4年上(40p)・4年下(46p)・5年上(54p)・5年下(54p)・6年上(48p)・6年下(44p)

①・②は、架蔵本を使用し、③～⑥は、信濃教育博物館（長野市）所蔵本によって語彙を抽出し、分野ごとに50音順に並べた（後掲・語彙表参照）。

2. 結果とその分析

後掲の語彙表をもとに、分野ごとの集計をとり、表にすると次のようになる。

理科教科書類に見る語彙の推移

署名	分野	魚介類	獣類	昆虫	鳥類	小計	植物	合計
『初學動物篇』（明治17(1884)年）		38	27	23	21	109		
『通常植物小誌』（明治18(1885)年）							102	102
『小學理科生徒筆記代用』（明治40(1907)年）		7	23	55	36	121	107	228
『尋常小學理科學習帳』（大正10(1921)年）		7	12	36	3	58	128	186
『りか／理科』（昭和55（1980）年）		9	2	43	1	55	57	112
『たのしい理科／楽しい理科』（平成16(2004)年）		3	1	10	1	15	10	25

注 (1)魚介類に、便宜上、両生類を含めた。

(2)語彙数は、異なり語数である。

明治から平成の今日に至る中で、教育課程（学年配当・指導内容・指導要領など）とそれに伴う教科書の分量が違うので、単純比較はできないことを承知の上で、上掲の表を通覧してわかることを列挙する。

- 明治から平成に至る中で、獣類・昆虫・鳥類は、減少はなほだしい。
- 動物語彙は、12.4%、植物語彙は、10.1%に減少した。
- 検定期以前の『初學動物篇』『通常植物小誌』は、それぞれ1冊で、『小學理科 生徒筆記代用』全4冊と同等の動植物語彙量を収録していた。
- 『尋常小學理科學習帳』のみ、植物語彙が多い。他は、動物語彙と植物語彙の数が拮抗している。
- 明治の『小學理科 生徒筆記代用』から平成の『たのしい／楽しい理科』に至る中で、命脈を保ったのは、魚介類では「メダカ」のみ、鳥類では「ツバメ」のみ、植物では「イネ」「サクラ」「ハウセンカ」の3語である。

3. まとめと今後の課題

検定期以前の2書では、収録対象とした動植物について、それぞれ次のように述べている。

書中ニ輯録スル所ノ動物ハ本邦ノ所産ニシテ日常最モ親シキモノヲ撰ヘリ

（『初學動物篇』凡例）

此書編纂ノ主意ハ小学中等科ノ教科書ニ供ズルニ在リ<中略>尤平常観易キ者ヲ列記シ
〔通常植物小誌〕 諸言)

いずれも、身近なものを対象としていると述べているが、現在は、身の回りで実物を確認するよりは、動物園や植物園に行くほうが早いというのが、正直なところである。

1961年に披露され、歌われ続けている『手のひらを太陽に』（やなせたかし作詞・いずみたく作曲）に登場するのは、「ミミズ・オケラ・アメンボ・トンボ・カエル・ミツバチ・スズメ・イナゴ・カゲロウ」だが、「オケラ・カゲロウ」は、あまり見かけなくなった。野外観察に学生を連れて出ても、見る機会が減っているのか、「アメンボ」の名を知らない学生が多い。

教科書がすべてではないが、よりどころとなる平成の理科教科書に盛りこまれた動植物語彙が25語というのは、動植物から遠ざかった現実をストレートに反映したものとも取りたくなる。本稿の調査結果は、鈴木孝夫氏の危惧を裏付ける補助線にはなりうるであろう。

なお、語彙・語誌の考察を深める上での今後の課題をまとめておきたい。

- a. 信濃教育会編纂以外の教科書での通時的調査を行い、今回の結果と比較する。
- b. 中学校教科書でも同様の調査を行い、教育における動植物基本語彙の実態を明らかにする。
- c. 語の消長の目安について、何らかの知見を獲得する。

〈事例〉『通常植物小誌』（明治18年）には、「だいこん又おほね」（5丁オ）がある。「おほね」は、大根の古名であり、『日本国語大辞典』第2版（小学館2001）には、『古事記』（712）から『混効験集』（1711）までの用例が紹介されている。が、実のところ、「おほね」がいつごろまで、現役の語であったのか、疑問である。今年、「ニホンカワウソ」が絶滅種に認定されたが、その基準は、観察報告が途絶えて30年というものであった。このような目安を語の消長においてたてられるであろうか。

- d. 語彙選択における江戸期の資料（『名物六帖』『訓蒙図彙』『大和本草』『節用集』類など）との連続性をさぐる。

注

- (1) 板倉聖宣（1986）による。
- (2) 信濃教育会（2007）p. 140

【参考文献】

●理科教育史関係

- 堀 七蔵『日本の理科教育史』第一～第三 福村書店 1961.2
板倉聖宣『日本理科教育史（付・年表）』第一法規 1968.3
蒲生英男『日本理科教育小史』国土社 1969.1
板倉聖宣編集代表『理科教育史資料 第2巻 理科教科書史』東京法令出版株式会社 1986.10

●理科教科書類

京極興一・細川英雄編『小学校教科書 教科別語彙資料 理科 本文編・索引編』

信州大学教育学部国語学第一研究室 1989.3

——『理科』1～6年（信濃教育会・昭和60年検定版）9冊が底本。

●信濃教育会関係

信濃教育会編・発行『信濃教育会百二十年史』2007.3

信濃教育会出版部『収藏品目録』2002.3

[謝辞]

今回の調査にあたり、貴重な所蔵資料を閲覧させていただきました信濃教育博物館の皆様に御礼申し上げます。

語彙表（次頁以下）

（凡例）

- ・仮名遣いは、対象資料のままとする。
- ・語の前の数字は、学年を意味する。
- ・□は、判読不能を表す。
- ・両生類は、便宜上、魚介類に含めた。

『初學動物篇』（明治17(1884)年）

●魚介類		●獸類		シラミ
	アカガヒ		アヲダイシヤウ	セミ
	アハビ		イシガメ	ヂヨラウグモ
	アユ		イタチ	ナメクヂ
	アヲガヘル		イヌ	ノミ
	イカ		ウサギ	ハイ
	イセエビ		ウシ	ハヘ
	イワシ		ウマ	ヒル
	ウナギ		カハホリ	ホタル
	ウミガメ		カハヲソ	ミツバチ
	カキ		キツネ	ミミズ
	ガザミ		クマ	ムカデ
	カツヲ		サル	ヤンマ
	カド		シカ	●鳥類
	カマクラエビ		スツボン	アヒル
	カレイ		セミクジラ	イエバト
	クルマエビ		タヌキ	ウ
	コヒ		ネコ	ウグイス
	サケ		ネズミ	ウヅラ
	サバ		ハツカネズミ	カモ
	サメ		ヒツジ	カラス
	シジミ		ブタ	ガン
	ジヂヤウ		マムシ	キジ
	スズキ		ムギワラヘビ	シラサギ
	スルメイカ		ムグラモチ	スズメ
	タコ		ヤマイヌ	タカ
	タニシ		ヤモリ	ツバメ
	タヒ		キノシシ	トビ
	タラ	●昆虫		ニハトリ
	トノサマガヘル		アリ	ヒバリ
	ナマコ		イナゴ	フクロウ
	ナマヅ		カイコノテフ	ホトトギス
	ニシン		カタツブリ	マナヅル
	ハマグリ		カマキリ	ワシ
	ヒキガヘル		ギス	ヲシドリ
	ヒラメ		キテフ	
	フカ		キリギリス	
	フグ		クマバチ	
	フナ		コクゾウ	

『通常植物小誌』（明治18(1885)年)

アカガシ		キリ		トウグハ
アカザ		クス		トウナス
アカツキ		クズ		トクサ
アケビ		クチナシ		ナシ
アケビカヅラ		クハ		ナスビ
アサ		クリ		ニンジン
アサウリ		クルミ		ヌハナ
アサガホ		クロマメ		ネギ
アヅキ		クワキ		ハウレンサウ
アハ		ケシ		ハジカミ
アブラナ		ケヤキ		ハス
アマノリ		コブ		ハチス
アキ		コンニャク		ヒノキ
イチジユク		サクラ		フキ
イチハツ		ザクロ		ブドウ
イチヨウ		サンシャウ		フヤウ
イネ		シダレヤナギ		ポウブラ
イワヒバ		シヒタケ		ポタン
ウメ		ジャガタライモ		マダケ
ウルシ		シヤクヤク		マツタケ
オニユリ		ジャクロ		マメ
オホネ		シュロ		ミカン
オホムギ		ジュンサイ		メウガ
カイダウ		シロウリ		モクレン
カウゾ		スイセン		モクレンゲ
カウモリ		スギ		モモ
カキ		スギコケ		ヤマサクラ
カキツバタ		セリ		ヤマノイモ
カシハ		ソバ		ユ
カブラ		ソラマメ		ユズ
カブラナ		ダイコン		リウキウイモ
カラムシ		タバコ		ワタ
キク		チャ		ワラビ
キハチス		ツバキ		ラマツ

『小學理科生徒筆記代用』（明治40(1907)年）

●魚介類			1 ウメケムシ		1 ミヤマゼミ
	1 カエル (蛙)		1 ウンカ		1 ヨトームシ
	1 キンギョ (金魚)		1 オニボーフラ	●鳥類	
	1 キンギョ (金魚)		1 カ (蚊)		2 アヒル
	1 コイ (鯉)		1 ガ (蛾)		2 ウヅラ
	2 シジミ (蜆)		1 カイコ (蚕)		2 エゾヤマドリ
	2 タニシ (田螺)		2 カイコ (蚕)		2 エナガ
	2 ドブガイ		2 カイメン (海綿)		2 カッコウ
	1 フナ (鮒)		2 カタツムリ (蝸牛)		2 キクイタダキ
●獸類			1 カマキリ		2 キジ (雉)
	1 イヌ (犬)		1 カミキリムシ		2 クソトビ
	2 イヌ (犬)		2 カミキリムシ (虫)		2 コガラ
	1 ウサギ (兎)		1 キマルバチ		2 ゴジューカラ
	1 ウシ (牛)		1 キリギリス		2 サンコーチョウ (三光鳥)
	1 ウマ (馬)		1 クサカゲロー		2 シギ
	1 オットセイ		1 クツワムシ		2 シジューカラ
	1 クジラ (鯨)		1 クモ		2 スズメ (雀)
	1 コーチン		1 ケムシ		2 セキレイ
	1 サナミ		1 コガネムシ		2 セッカ
	1 ドルキング		1 コセミ		2 ツバメ (燕)
	1 ニワトリ (鶏)		1 コホロギ		2 ツル (鶴)
	1 ネコ (猫)		1 サナギ (蛹)		2 トビ
	1 ネズミ (鼠)		2 サナダムシ		2 ハト
	1 バンタム		2 サンゴ (珊瑚)		2 ヒガラ
	1 ハンパーク		1 シロチヨウ		2 ヒタキ
	1 ブラマ		1 ズイムシ		2 ヒバリ
	1 プリマウスロック		1 スズムシ		2 ヒヨドリ
	2 ヘビ (蛇)		1 ゾームシ		2 フクロー
	2 マムシ		1 テントームシ		2 フクロー
	1 ミノルカ		1 ドロムシ		2 ホトトギス
	1 ラッコ		1 トンボ		2 ミソサザイ
	1 ラングシヤン		2 ナニシチョームシ (虫)		2 ミミヅク
	1 レグホン		1 ハイ (蠅)		2 ムクドリ
	1 ワイアンドット		2 バクテリア		2 ムシクイ
●昆虫			1 バッタ		2 モツ
	1 アカマルバチ		1 バビホー		2 ヤマドリ
	1 アゲハノチヨウ		1 ハマクリムシ		2 ヨタカ
	1 アブラゼミ		2 ハラノムシ		2 ライチョウ
	1 アブラムシ		2 ヒゼンムシ (虫)		2 ルリ
	1 アリ (蟻)		1 ボーフラ		1 ワシ
	1 アヲナムシ		1 ホタル (螢)	●植物	
	1 アヲナムシ		1 マツムシ		2 アイ (藍)
	1 イナゴ		1 マルバチ		1 アケビ
	1 イモムシ		1 ミチオシヘ		2 アサ (麻)
	1 ウジ (蛆)		1 ミツバチ		1 アサガホ

	2 アサクサノリ		2 ゴボー		2 ナガイモ (長芋)
	2 アズキ (小豆)		2 コムギ (小麦)		1 ナシ (梨)
	1 アブラナ		2 コメ (米)		2 ナシ (梨)
	2 アブラナ (油菜)		2 ゴモクダケ		1 ナデシコ
	2 アブラナ (油菜)		2 コンブ		2 ナラ
	2 アヲノリ		2 サクラ (櫻)		2 ニシキギ
	1 イネ (稲)		2 ササゲ		1 ニンジン
	1 ウドンナ		1 サツマイモ		2 ニンジン
	2 ウマブドー		2 サツマイモ		1 ヌスビトハギ
	1 ウメモドキ		1 サトイモ		1 ネギ
	2 ウルシ (漆)		2 サトイモ		2 ネギ
	2 ウルシ (漆)		2 シイタケ (椎茸)		1 ハス (蓮)
	2 エンドウ (豌豆)		2 シダ		2 ハス (蓮)
	2 エンドー		2 シメジ		2 ハツダケ
	2 オオムギ (大麦)		1 ジャガイモ		2 ヒガンバナ
	2 オチバダケ		2 ジャガイモ		2 ヒジキ
	2 カエデ		2 スギ (杉)		2 ヒノキ
	1 カキ (柿)		2 スギナ		2 ヒョータンボク
	2 カキ (柿)		1 ススキ		2 フウバイカ (風媒花)
	2 カキ (柿)		2 ゼンマイ		1 フーロソー
	1 カブラ		1 ダイコン		1 フジバカマ
	2 カブラ		2 ダイコン (大根)		1 ブドウ (葡萄)
	2 カラマツ		2 ダイズ (大豆)		2 ブドウ (葡萄)
	2 キウリ		2 タガラシ		2 ベニタケ
	1 キキョー		2 タケ (竹)		1 ホーセンクワ
	1 キキョー		2 タケニグサ		1 マツ
	2 キク		2 タケノコ		2 マツ (松)
	2 キク (菊)		1 タバコ (煙草)		2 マツタケ (松茸)
	2 キツネノカミソリ		1 タンポポ		2 マメ (豆)
	2 キツネノボタン		1 チャ (茶)		2 ムギ (麦)
	2 キツネノエフデ		2 チュウバイカ (虫媒花)		2 メン (綿)
	1 キュウリ (胡瓜)		2 チョーセンアサガホ		2 モエギダケ
	2 キンポージ		2 ツキヨタケ		1 モミヂ
	2 クサノオー		2 ツクシ		1 ヤブシラミ
	1 クズ		2 ツタウルシ		1 ユリ (百合)
	2 クヌギ		2 テングサ		2 ユリ (百合)
	1 クリ (栗)		2 テングサ		2 リンゴ
	2 クリ (栗)		2 テングダケ		1 レンコン (蓮根)
	2 クリ (栗)		2 トーダイグサ		2 ワカメ
	2 クリ (栗)		2 ドクウツギ		2 ワラビ
	2 クリタケ		2 ドクゼリ		2 ワラビ
	1 クルミ		2 トラノオ		2 ワラビ
	2 クワ (桑)		2 トリカブト		1 ヲミナヘシ
	1 ゴボー		1 ナガイモ		

『尋常小學理科學習帳』(大正10(1921)年)

●魚介類			4 シホカラトンボ	4 ウメ
	6 アマガエル(蛙)		4 スズムシ	4 ウメモドキ
	6 エビ		4 セミ(蟬)	4 エゾギク
	6 カエル(蛙)		6 セラタグモ	4 エゾギク
	6 カニ(蟹)		4 タイコムシ	5 エンドウ(豌豆)
	6 コイ(鯉)		5 チョウ(蝶)	6 エンドウ(豌豆)
	6 トノサマカエル(蛙)		6 トダテグモ	4 オジギサウ
	6 ドブガイ(貝)		4 トンボ	4 オジギサウ
●獣類			4 ナツアカネ	4 オホムギ
	4 ウシ(牛)		6 ハイトリグモ	5 カウダケ
	4 ウマ(馬)		5 ハエ(蠅)	4 カウホネ
	6 エチゴウサギ(越後兎)		4 ハグロトンボ	4 カキ(柿)
	6 コウチン		6 フクログモ	5 カサタケ
	6 シヤモ		5 ポウフラ	4 カタバミ
	6 チヤボ		4 ホタル(螢)	4 カタバミ
	6 ニワトリ(鶏)		4 マツムシ	4 カヘデ
	4 ネコ(猫)		4 マツムムシ	4 ガマ
	4 ネヅミ		6 ミドリムシ	5 キウリ(胡瓜)
	6 ヘビ(蛇)	●鳥類		4 キキヤウ
	6 ヤマカガシ		4 スズメ	4 キク
	6 レグホン		6 ツバメ	4 キツネノボタン
●昆虫			6 ライチョウ(雷鳥)	5 キツネラフソク
	4 アブ	●植物		5 キノコ
	4 アリ		5 □シノヂ	4 キンミツヒキ
	6 アリジゴク		5 アカハツタケ	4 クサノワウ
	6 アリヂゴク		4 アサガホ	4 クズ
	4 イトトンボ		4 アサガホ	5 クリタケ
	6 エダシャクトリ		5 アサガホ	5 クロタケ
	4 オシロイトンボ		6 アサガホ	4 クロモ
	4 オニヤンマ		4 アザミ	6 クワ(桑)
	5 カ(蚊)		4 アネモネ	4 ケシ
	6 カイコ(蚕)		4 アブラナ	4 ゲンノシヨウコ
	6 カタツムリ		4 アレチノギク	5 ゴクツチダケ
	4 キリギリス		5 アキタケ	4 コスモス
	5 キンバヒ		5 アヲギリ	4 サクラ
	4 ギンヤンマ		6 アンズダケ	5 サクラ(櫻)
	6 クモ		5 イネ(稲)	6 サクラ(櫻)
	4 コホロギ		5 イロガハリ	5 サマツダケ
	6 ザウリムシ		5 ウキクサ	5 シイタケ
	6 ササバサウグモ		5 ウスタケ	5 シメヂ
	4 サナヘトンボ		4 ウマノアシガタ	5 シヨウロ

4	ジヨチウギク		4 ナズナ		5 ベニテングタケ
4	スギナ		6 ナタネ (菜種)		5 ホウキダケ
4	スキ		5 ナツナ		4 ホウセンクワ
5	スツボンタケ		4 ナデシコ		4 ホウセンクワ
5	ソメキヨシノ		4 ナデシコ		6 ホウセンクワ
5	ダイコン (大根)		5 ナノハナ (菜の花)		4 マツ
4	タケ (竹)		5 ナラタケ		5 マツ (松)
4	タケニグサ		4 ヌスビトハギ		6 マツ (松)
4	タケノコ		5 ヌメリイクチ		5 マツタケ
5	タマゴテングダケ		4 ノゲシ		4 マツバボタン
4	タンポポ		4 ノバラ		4 マムシグサ
4	タンポポ		4 ノブダウ		6 ミセバヤ
4	チシバリ		4 バイクワモ		5 ムギ (麦)
4	チューリップ		4 ハギ		6 ムギ (麦)
5	ツキヨタケ		4 ハゲイトウ		6 ヤナギ (柳)
4	ツクシ		4 ハゲイトウ		4 ヤブジラミ
5	ツチカブリ		4 ハス		5 ヤヘザクラ (八重)
4	ツツジ		6 パレイシヨ (馬鈴薯)		4 ヤヘムグラ
5	ツボンシメヂ		5 ヒガンザクラ		5 ヤマザクラ
4	ツメクサ		4 ヒガンバナ		4 ユリ
4	テウセンアサガホ		4 ヒシ		4 ユリ
5	テングタケ		4 ヒマワリ		4 リンゴ
4	トウダイグサ		4 ヒマワリ		4 レンゲサウ
4	ドクウツギ		5 ヒラタケ		5 ワラビ
5	ドクスギタケ		5 ヒラバツタケ		4 𦵏
4	ドクゼリ		4 フキ		4 エンドウ
5	ドクベニタケ		4 ブダウ		4 ヲドリコサウ
4	トチ		4 フヂ		4 ヲバナ
4	トリカブト		4 フヂバカマ		4 ヲミナヘシ
4	トリカブト		4 ヘウタンボク		

『りか／理科』（昭和 55(1980)年)

●魚介類			4 クロヤマアリ		3 アブラナ
	2 オタマジャクシ		3 クワガタ		5 アブラナ
	2 カエル		4 クワガタ		6 アブラナ
	3 カエル		2 ゲンゴロウ		3 イヌタデ
	5 カエル		5 ケンミジンコ		5 イネ
	2 ザリガニ		4 コオロギ		6 イネ
	2 タニシ		4 コミスジ		5 インゲンマメ
	2 ドジョウ		4 シオカラトンボ		2 ウメ
	2 ニジマス		4 ジャノメチョウ		2 オオイヌノフグリ
	2 フナ		2 セミ		3 オオイヌノフグリ
	6 マキガイ(貝)		4 セミ		6 オシダ
	2 メダカ		5 ゾウミジンコ		2 オシロイバナ
	5 メダカ		5 ゾウリムシ		3 オシロイバナ
	6 メダカ		1 ダンゴムシ		6 カボチャ
●獣類			4 ダンゴムシ		6 ガマズミ
	6 クジラ		3 チョウ		6 カラマツ
	6 ナウマンゾウ		2 テントウムシ		3 キク
●昆虫			3 テントウムシ		4 キャベツ
	2 アオムシ		4 ナナホシテントウ		2 キンセンカ
	3 アゲハ		2 ニジュウヤホシテントウ		3 クサキョウチクトウ
	4 アゲハ		3 ハチ		6 クズ
	3 アシナガバチ		2 バッタ		1 クヌギ
	3 アブラゼミ		2 バッタ		1 グラジオラス
	4 アブラゼミ		2 マツモムシ		6 クリ
	2 アメンボ		5 ミジンコ		2 コスモス
	4 アメンボ		2 ミズカマキリ		6 コマユミ
	1 アリ		2 ミズスマシ		3 サクラ
	3 アリ		6 ミツバチ		1 サルビア
	2 アリジゴク		5 ミドリムシ		4 ジャガイモ
	3 イチモンジセセリ		4 モンキチョウ		1 スイセン
	5 イトミミズ		4 モンシロチョウ		3 スイセン
	3 イラガ		2 ヤゴ		6 スギ
	4 カイコガ	●鳥類			6 スギゴケ
	1 カタツムリ		2 ツバメ		3 スミレ
	2 カタツムリ	●植物			3 ダイコン
	3 カタツムリ		1 アオギリ		5 ダイコン
	2 カブトムシ		5 アオミドロ		5 ダイズ
	2 カマキリ		1 アサガオ		1 ダリア
	3 カマキリ		4 アサガオ		3 タンポポ
	4 カラスアゲハ		2 アブラナ		1 チュウリップ
	4 クモ		2 アブラナ		5 ツツミモ

	5 トウモロコシ		3 フキノトウ		1 マツ
	6 トウモロコシ		1 ブドウ		1 マツバボタン
	3 ノコンギク		6 ブナ		3 マツヨイグサ
	1 ヒアシンス		3 ヘチマ		1 ミカン
	6 ヒノキ		6 ヘチマ		6 ヤマブドウ
	2 ヒマワリ		2 ホウセンカ		3 ユリ
	6 ヒマワリ		4 ホウセンカ		1 リンゴ
	3 ヒメオドリコソウ		5 ホウセンカ		3 リンゴ
	1 ヒャクニチソウ		6 ホウセンカ		
	2 フキノトウ		3 ホオズキ		

『たのしい理科／楽しい理科』（平成 16(2004)年)

●魚介類			6 ダンゴムシ	●植物	
	4 オタマジャクシ		3 トノサマバッタ		5 イネ
	4 カエル		3 トンボ		5 インゲンマメ
	5 メダカ		3 バッタ		3 オシロイバナ
	6 メダカ		5 ミツバチ		5 カボチャ
●獣類			3 モンシロチョウ		4 サクラ
	6 ウサギ				6 ジャガイモ
	3 アカムシ	●鳥類			6 シロツメクサ
	3 イトミミズ		4 ツバメ		5 トウモロコシ
	4 カマキリ				4 ヘチマ
					3 ホウセンカ